

令和3年3月18日

地域包括支援センター運営協議会

地域ケア推進会議（令和2年度における会議の実績報告）

1 主旨

地域包括ケアシステムを実現する手段の一つとして、開催を推進している地域ケア会議について、市全域における課題把握等を行う地域ケア推進会議を開催するもの。

本日の会議においては、令和2年度における会議の実績を報告するとともに、今後の事業展開の方向性について共有する。

2 地域ケア会議の概要

(1) 目的

地域ケア会議は、課題を抱えた個人の支援内容の検討による課題解決を出発点として、関係者間のネットワークの構築、地域課題の把握等を行うことを目的としている。

また、個別ケースの支援内容の検討を積み重ねることによって、当該地域において共通する課題や要因を見出すことができ、その地域に不足している社会資源の開発、新たな仕組みづくりに向けた政策形成などに繋げることができると想定している。

(2) 5つの機能（それぞれが相互に連携・循環）

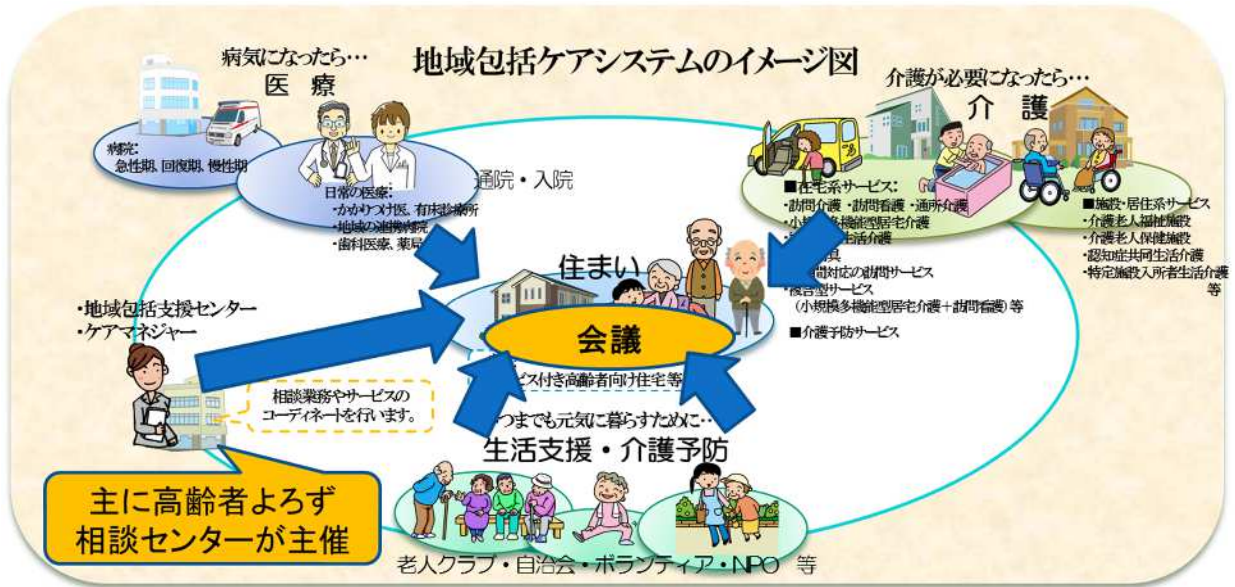
	機能	具体的内容
1	個別課題解決機能	・ 自立支援のためのケアマネジメントの質向上 ・ 支援困難事例等に関する相談、助言
2	地域包括支援ネットワーク構築機能	・ 住民との情報共有（連携力の向上） ・ 関係機関の役割の明確化
3	地域課題発見機能	・ 個別ケースの背後に同様のニーズを発見 ・ 検討した地域課題の解決策を関係者で共有
4	地域づくり・資源開発機能	・ それぞれの活動内容、得意分野を活用 ・ 必要な地域資源を地域で開発
5	政策形成機能	・ 市町村、県、国への施策の提言

地域ケア会議運営マニュアルP23～25参照（説明欄は抜粋）

(3) 目指すべき姿

地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた1つの手法である。地域包括ケアシステムを構成する各分野（医療・介護・住まい・生活支援・介護予防）の連携を通して、「地域で尊厳のあるその人らしい生活の存続」ができるため5つの機能を備えた地域ケア会議を活用する。

【参考：地域包括ケアシステムにおける地域ケア会議のイメージ図(厚生労働省資料加工)】



(4) 平塚市における地域ケア会議の分類

ア 第1層：地域ケア個別会議

個別課題の解決、介護支援専門員による自立支援の方針を決定する。個別事例の解決を蓄積することにより、地域課題を明らかにする。

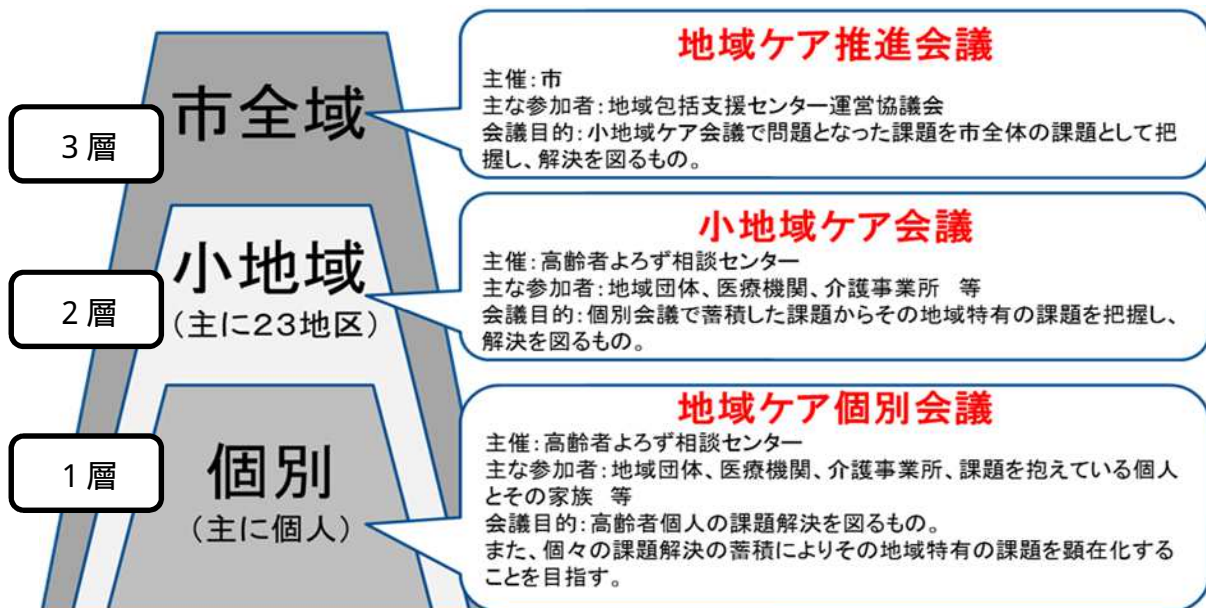
イ 第2層：小地域ケア会議

小地域の課題の把握および対応を検討する。地域ケア個別会議で出された個別課題で小地域に共通する課題を検討する。

ウ 第3層：地域ケア推進会議

市における地域課題の把握および対応を検討する。小地域ケア会議で検討された課題で小地域の圏域内では解決できない市全域に共通する課題を検討する。

【参考：地域ケア会議の構造イメージ図】



3 令和2年度の会議開催実績等

(1) 会議開催数(令和2年4月～令和3年3月)

○地域ケア個別会議：14回

○小地域ケア会議：26回

○地域ケア推進会議：1回

【各包括圏域別開催実績】

包括名	あさひきた	あさひみなみ	おおすみ	倉田会	ごてん	サンレジ	とよだ	にし	富士白	ふじみ	まつがおか	みなと	ゆりのき
個別	0	1	3	0	0	0	0	0	1	2	3	2	2
小地域	2	3	2	2	0	1	0	1	3	2	1	1	8

まだ開催していない会議は予定の件数を含む。

【参考：令和元年度各包括圏域別開催実績】

包括名	あさひきた	あさひみなみ	おおすみ	倉田会	ごてん	サンレジ	とよだ	にし	富士白	ふじみ	まつがおか	みなと	ゆりのき
個別	1	1	2	2	0	4	1	2	4	7	3	2	1
小地域	3	2	3	2	1	7	1	23	1	2	3	2	4

ひらつかにしの小地域ケア会議はサロン単位の会議を含む。

○地域ケア個別会議：30回

○小地域ケア会議：54回

○地域ケア推進会議：1回

(2) 会議における議論内容等

高齢者よろず相談センター(以下「包括」という。)からの報告書及びヒアリングにより収集した主な意見をまとめたもの。

ア 地域ケア会議を開催する経緯(開催するきっかけ)

地域ケア個別会議においては、近隣住民、ケアマネジャー、地域団体からの相談により会議開催に至る例が多い。

小地域ケア会議においては、関係団体と調整のうえ、定期開催をしている例が多い。

イ 地域ケア会議の開催を通して発見された地域課題

コロナによる外出自粛等の影響により、高齢者の心身の機能が低下し、フレイル状態や認知機能の低下、転倒・骨折が増えている。

認知症高齢者の徘徊・行方不明の防止や認知症に対する知識や理解が課題として挙げられた。

高齢者に対する移送サービスについて課題がある。

サロン等に参加しない高齢者、地域と関わりのない高齢者、閉じこもり高齢者をどのように支援していくか課題である。

ウ 発見された地域課題の解決方法

自治会・民生委員がいなくなった団地で小地域ケア会議を定期的を開催し、課題を地域関係機関と共有し、団地所有会社と包括で高齢者相談会の開催をした。

個人情報の開示については家族の同意を取っていく。

家から出ない高齢者に対して単発的ではあるが、地域では敬老会の赤飯配布・グラウンドゴルフ大会への参加。包括においても民生委員と協力し毎月チラシのポスティングと声かけの実施。福祉村でのイベントなどに参加を促していく。

エ 地域ケア会議を開催して得られたメリット

地域において、課題の共有、地域活動の情報共有、連携体制の強化が図れた。

会議を通じて知らない部分の発見や包括ケアマネ・民生委員等、支援者側の役割の明確化ができた。

高齢者の生活実態が把握できたこと。行政の複数の課やマンション管理団体との連携ができた。地域ケア会議後もマンション管理団体側から心配な居住者に関する情報共有ができています。

対象者を取り巻く支援者がそれぞれの役割を確認し、支援できるようになった。担当ケアマネジャーと民生委員の橋渡しとなり連携が構築された。

オ 地域ケア会議の開催を通して発見された地域の社会資源

自治会へのお知らせ回覧が可能になった。

マンション管理団体による見守り支援を発見できた。

民生委員、薬局、新聞店による見守り体制が発見できた。

カ 地域ケア会議を開催するうえでの今後の課題

個別ケア会議において、要請があっても本人の同意や主治医の意見を得られず開催できない。

感染症対策のため、人数を集めての開催ができない。

コロナ禍での開催は時間や人数に制約がある。また、会議室の確保も課題となる。

多数の出席者がいるため意見集約を限られた時間で行うことが難しく司会者の力量を上げていく必要がある。

個別ケア会議から小地域ケア会議につなげるということがない現状があり、個別ケア会議の活性化が必要になる。

キ 地域ケア会議から抽出された行政への提言

閉じこもり高齢者を把握するためのツールや条件なく誰でも利用できる「見守り」が必要になってくる。

外出支援のために移動支援である総合事業サービスDの検討をしてほしい。

介護保険関連の事業に対する理解と認識にズレが生じないために定期的な説明会の実施などによる調整が必要である。

市民が障がいや医療、介護などを一括で相談できる窓口が必要である。

個人情報保護も重要だが、緊急時の対応のために包括へ一人暮らし高齢者の情報を開示することも必要ではないか。

4 今後の方向性

閉じこもり高齢者への支援について、平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画〔8期〕）で実施した「一般高齢者調査」「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」から圏域ごとに閉じこもり高齢者の割合、生活状況、支援ニーズなどの情報を提供いたします。

また、平塚市地域包括支援センター事業計画において取組重点事項としている「外出の促進（閉じこもり高齢者の把握等）」の好事例を水平展開できるよう情報共有をしていきます。

地域ケア推進会議（地域包括支援センター運営協議会）においても、「閉じこもり高齢者の把握、社会参加への効果的な取り組み等」について、ご意見をいただきながら、事業の推進を目指します。

以 上